

第3回 長崎災害リハビリテーション推進研修会

大規模災害に対応できる リハビリテーションの支援体制とは

～地域特性に即した準備～

日程 平成26年3月15日(土)**時間** 13:00～18:10**場所** 長崎新聞文化ホール(長崎市茂里町)**主催** 長崎災害リハビリテーション推進協議会(長崎JRAT)**参加
無料**

プログラム

- 13:30～ 開会
長崎災害リハビリテーション推進協議会(長崎JRAT)代表 松坂 誠應
- 13:40～15:50 講演(60分×2)
講演①
「大規模災害におけるDMATの活動とは(仮)」
講師 小早川 義貴 氏 国立病院機構災害医療センター臨床研究部
厚生労働省医政局災害対策室DMAT事務局
座長 塩塚 順 氏(長崎JRAT副代表)
- 講演②
「大規模災害における岩手県の取組み(仮)」
講師 高橋 明 氏 いわてリハビリテーションセンター理事長
岩手県リハビリテーション支援センター
座長 松坂 誠應 氏(長崎JRAT代表)
- 16:05～18:00 パネルディスカッション(115分 小休止含む)
テーマ「災害リハビリテーションの推進にむけて
～地域特性に即した取組みについて～」
- ① 宮本 寛 氏 高知県リハビリテーション研究会代表
南国中央病院 副院長
- ② 町田 千尋 氏 徳島県保健福祉部医療政策課
医療戦略推進室医療戦略推進担当主任主事
- ③ 草場 謙至 氏 長崎JRAT 運営委員会
長崎市立病院成人病センター 言語聴覚士
- 座長 栗原 正紀 氏 大規模災害リハビリテーション
支援関連団体協議会(JRAT)代表
- 18:00～ 閉会
長崎JRAT事務局 井手 伸二

長崎災害リハビリテーション推進協議会 発足趣意

2011年3月11日の東日本大震災による被災の影響は未だ現在進行形であり、復興にはまだまだ程遠いと言わざるを得ない現状が続いていますことは非常にいたたまれない思いです。

今回の災害は阪神淡路大震災時とは大きく異なり、大地震に引き続き起こった大津波によって瞬時に多数の方々が落命され、更にその後の避難所・仮設住宅生活において多くの高齢者が生活不活発病を基にした種々の罹患状況が今なお大きな問題となっているところです。

このような経験から、今後の大規模災害時における支援活動には救命救助のみならず、それに引き続くリハビリテーションによる生活支援等が非常に重要であることが浮き彫りになりました。そこで、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT:旧東日本大震災リハビリテーション支援関連団体協議会::日本リハビリテーション病院・施設協会、日本リハビリテーション医学会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本訪問リハビリテーション協会、全国デイケア協会、日本介護支援専門員協会、全国地域リハビリテーション研究会・全国地域リハビリテーション支援事業協議会、日本義肢装具士協会）では全国規模で災害リハビリテーションコーディネーター養成研修を行い、災害リハビリテーションに関するネットワークの構築およびDMATと連動した活動が可能なJRATの育成を行い、来る大災害に備えていくこととなりました。

そこで長崎県ではこれら全国規模での動きに連動し、来る大規模災害時にDMAT等との連携の下で適時適切に支援活動に参加できるような素地づくり（ネットワーク構築、研修会実施、教育・啓発など）を行うために、ナガサキリハビリテーションネットワーク、長崎県理学療法士会、長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会、長崎県介護支援専門員協議会などが一堂に会し、長崎災害リハビリテーション推進協議会を昨年10月に結成致しました。設立より3回目となる本研修会は、DMATの活動、東日本大震災後の岩手県の取組み、地域における災害リハの取組事例、JRAT災害リハコーディネーター研修会受講報告を内容として開催します。

第3回長崎災害リハビリテーション推進研修会

平成26年3月15日(土)

申し込み票

返信日

平成26年

月

日

病院名/施設名			
TEL	-	FAX	-
参加者氏名	職種	参加者氏名	職種

返信先 長崎リハビリテーション病院内 長崎JRAT事務局

FAX 095(811)2078 (送信票不要) 問合せ Tel 095(811)2077 担当:吉野